



NPO법인  
삼천리철도

NEWS LETTER

# 三千里

Vol. 16

2010年7月号

発行  
NPO法人 三千里鐵道  
〒441-0109  
愛知県豊橋市下五井町青木31  
TEL.0532-53-6999  
FAX.0532-54-4931

## 新たな地平に向けてスタート

### 結成10周年記念討論会、名古屋で開催

去る6月27日、名古屋名進研ホールにおいて記念集会被開催された。

毎年開催してきた記念集会被ではあるが、今年には特別な意味をもつ記念集会被になった。

韓国「併合」から100年、6.15から10年のこの年に、天安艦事件などさらに対決激化が危ぶまれるこの時期に、海外で6.15への回帰を叫ぶ集会被が開かれたのだ。

この日気温も上昇し、梅雨空の蒸し暑さをものともせず全国から150名を越える会員、支持者、知人、有志が集、会場は終止熱氣に包まれていた。

今年には結成10周年記念討論会を開催、タイトルは「東北アジアの平和を求めて」。丁世鉉元統一部長官の「南北問題の現住所と展望」、続いて都相太理事長から「三千里鐵道は、在日として祖国の平和統一に寄与する」、磯貝治良副理事長の「韓国併合から100年、日本が今すべきこと」と題する報告があり、康宗憲先生の司会で参加者からの質問や提案などが熱っぽく語られた。記



念討論会は「三千里鐵道2010年宣言」を発表し幕を閉じた。

この日ホテルサンルートにおいて、都相太理事長のハンギョレ統一文化賞受賞を祝う祝賀パーティーが盛大に開催された。韓国からハンギョレ統一文化財団林東源理事長、発題者の丁世鉉先生、李鳳朝元統一部次官も席を共にし、祝賀の雰囲気をもさらに盛り上げた。

こうして三千里鐵道はこの日を分岐点にして、2010年宣言に明示された地平に向けて新たな第一歩を踏む出した。



## 三千里鐵道2010宣言

2010年6月27日  
三千里鐵道結成10周年記念討論会  
『東北アジアの平和を求めて』にて

- ・われら三千里鐵道は、6.15共同宣言とそれが指し示した道筋を、明明と照らしたてゆく。
- ・われら三千里鐵道は、海外同胞の立場から、わが祖国の平和と統一の大道を歩んでゆく。
- ・われら三千里鐵道は、北域緑化、養豚事業など具体的な行動を携って寄与してゆく。

# 東北アジアの平和を求めて

## 結成10周年 記念討論会

## 発題 骨子



### 南北関係の現住所と 展望、そして課題

丁世鉉  
(キム・デジュン平和センター副理事長)

#### ■南北関係、6.15 10年目に6.25以後冷戦時代に回帰したよう

南北関係悪化の基調は、イ・ミョンバク政府が6.15を否定した時からすでに始まっていたが、現象的には金剛山観光客被撃事件から本格化された。

イ・ミョンバク政府が提示した観光再開3大条件に関連しても、北朝鮮は昨年8月から積極的な姿勢を見せたが、条件を提示したイ・ミョンバク政府は一切動かなかった。

今年の春季韓米合同軍事訓練期間中の3月26日天安艦事件が発生し、去る5月24日イ・ミョンバク大統領は、天安艦事件に対する報復として、“今この瞬間から南北経済協力を全面中断する”と宣言した。大統領が直接公開で中断を宣言しただけに、経済協力を再開することは容易ではないだろう。

#### ■南北関係はどこまで悪化するのだろうか？

イ・ミョンバク大統領と周囲の参謀らは、北朝鮮を共存と統一のパートナー、または、交渉の相手とは見ていないようだ。“待つのも戦略”というのは、交渉を通じて韓半島状況を管理するより、北朝鮮が崩壊、屈服するまで待つという立場の発露と言える。

政権首脳部の対北朝鮮観が基本的に敵対的ならば、戦術的变化を見せても政策基調は変わらない。過去の事例とイ・ミョンバク政府の南北関係悪化過程を勘案する時、今後の南北関係は短期的には悲観的だ。

#### ■南北関係悪化を防ぐために

私たちは今後、イ・ミョンバク政府の対北朝鮮観と統一哲学の変化を促す運動を積極的に行わなければならない。イ・ミョンバク政府が6.15宣言と10.4宣言を尊重し、履行するよう促す民間運動も、積極的に展開していかなければならない。

民主国家で政策変化を引き出すためには、平和的な市民運動と、それを通じた世論づくり、そして各種の選挙を通じた国民要求の強力な伝達が求められている。



### 「韓国併合」100年、 日本がいますべきこと

磯貝治良  
(作家)

2010年の今年、日本帝国が「韓国併合に関する条約」を大韓帝国に強制して100年、私たちは「日本の良心をつくろう」を合言葉に、「韓国併合100年」東海行動を発足させた。

#### ■戦後責任をどのように果たすか

日本政府は戦後、植民地支配と侵略の責任を回避してきた。果たすべき責任の第1は、戦後補償と謝罪。

謝罪についても、国会決議による謝罪が必要。その実現に向け

ては政府の責任にとどまらず、国民レベルでの行動が求められている。

#### ■民衆の意識変革が必要

いま日本社会には、民族差別／排外主義／他者排斥の動きがある。日本社会の恥と言えるその動きは、近代の形成過程で国家によって刷り込まれた意識が戦後、克服されないままに世代を継いできた過ちを想起させる。戦後責任の問題は政治権力の側にあると同じ大きさで民衆の側にある。民衆の戦後責任をどのように果たすか。私たちがいまなすべきことは、私たち民衆自身の意識変革であろう。

#### ■日本人にとって、なぜ朝鮮半島の統一か

朝鮮半島の分断状況は、日本人にとって決して観客席から眺める海の向こうの風景ではない。植民地支配がなければ、朝鮮半島の分断はなかった。戦後65年にわたる対朝鮮半島政策が、南北分断を助長し、固定化に手を貸してきた現代史の事実を誰も否定できない。だから、朝鮮半島の和解と協力、統一のために行動することは、日本および日本人の戦後責任の大切な取り方の一つになる。



### 在日として 祖国平和統一に参与する

都相太  
(三千里鐵道理事長)

2010年は日本の植民地支配から100年という節目の年になる。私の歴史百年への回帰は、祖父母、父母の生と死、そして私の70年近い人生を送ったこの地からの出発になる。

#### ■抵抗、批判者としての在日

貧しい片田舎の故郷さえも捨てて渡日せざるを得なかった肉親は、極貧と絶え間ない差別の嵐に耐え、その生涯を終えた。

在日2世は、無学で貧しく、その存在自体が日本社会から疎外されている1世を、日本社会と同じく、いやそれ以上に否定した事実はないだろうか。

日本社会の問題性は、歴史の歪曲ばかりか歴史の分断にある。もう一度、肉親の生と死の軌跡を問い直し、歴史に立ち返る必要がある。

社会を変革する者は、若者、ばか者、よそ者と言われるが、われわれは「よそ者」として、抵抗と批判をつづけ行動すべきだと考える。

そのことは逆に、日本社会全体に対する大きなメッセージになるはず。

#### ■三千里鐵道10年

10年前の6.15南北共同宣言は、冷戦思考、分断思考の終焉を告げるものであった。それは私たちに、非武装地帯に立ち平和と統一に向け、具体的に参与することを求めた。

在日には南南葛藤、南北葛藤、北北葛藤、韓・北・日葛藤、朝鮮半島・日本列島葛藤までが存在している。この葛藤の最大要因は、朝鮮半島の分断にある。

三千里鐵道は、非武装地帯付近での拠点作りを夢見ている。開城とか金剛山などに「海外同胞特区」を作り、そこで養豚事業などをし、体のなまった在日の若者をこき使う構想だ。

#### ■境界に生きる意味

私たちは、南北を分断している非武装地帯の境界、朝鮮半島と日本列島の境界に生きている。

在日の若者の一人が韓国籍を所持しながら共和国代表のサッカー選手になった。世代から言えば在日3世、その民族意識の毅然性は評価すべきだ。彼も朝鮮半島に帰るのでなく境界に生きてゆく一人であろう。



## 祝賀メッセージ

李桂煥(統一ニュース代表)

“すべき仕事をしただけです。時間はかかるかも知れないが、いつかこの鉄道は必ず連結され、分断された祖国も必ず統一されることを確信している。”

8年前、当時は団体の名前もなじみがうすかった日本の非営利活動法人三千里鐵道の都相太理事長は、南北鐵道復旧寄付を統一部長官に伝達した後、〈統一ニュース〉とのインタビューでこのように話した。そしてその通り、京義線、東海線鐵道が開通した。

その後も6.15共同宣言記念行事など三千里鐵道活動の便りは、海の彼方から聞こえてきたし、団体、所属を越えて祖国統一のために実質的に貢献している模範的な活動も広く知られるようになった。三千里鐵道が創立10周年を迎え“ハンギョレ統一文化賞”受賞者に決定されたことは、このような事実に照らしても正当な評価と言えるであろう。北側での植樹事業や養豚団地造成事業を推進するという今後の構想も、良い結実を結ぶだろうと期待する。

6.15共同宣言を背景に誕生した統一ニュースと、ほぼ同じ時期に“6.15共同宣言実践、祖国統一実現”という同じ意志で結成された三千里鐵道の創立10周年と“ハンギョレ統一文化賞”受賞を心よりお祝い申し上げる。

### 【プロフィール】

- 1958 ソウル出生
- 1984 延世大哲学科卒業
- 1999 高麗大労働大学院卒業(修士)
- 1994 プチョン労働者会館所長
- 1995 韓国労働運動協議会政策委員長
- 1997 プチョン市民センター代表
- 2000 統一ニュース代表理事(現在)
- 2004~2007 民主平和統一諮問委員

### 統一ニュースの歩み

- 2000.6 統一ニュース事務室開所
- 2000.8 統一ニュース サイト開設
- 2000.10 統一ニュース創刊記念式
- 2001.5 最初の北朝鮮訪問取材(南北労働者統一大会、金剛山)
- 2001.8 民族大祝典取材(平壤、以後北朝鮮訪問取材多数)
- 2003.6 大統領府、外交部、統一部、国防部出入り取材開始
- 2005.7 6者会談取材(北京)

- 2006.11 朝鮮大学校創立50周年取材(東京)
- 2006.11 北側(朝鮮6.25編集社)と1次実務協議、記事交流など合意書採択
- 2007.3 北側(ウリ民族キリ)と記事、写真、動画交流開始
- 2007.12 統一ニュース北朝鮮訪問取材団単独取材
- 2008.7 統一ニュース北朝鮮訪問取材団単独取材
- 2008.12 統一ニュース北朝鮮訪問取材団単独取材
- 2009.10 統一ニュース創刊9周年記念イム・ドンウォン前統一部長官招請講演
- 2010.6 “天安艦特別取材チーム”構成(単独報道3回)

## 祝賀 NPO法人三千里鐵道結成10周年

# We're Dreamer.

人間を豊かにするもの、それは時間と空間が創造します。  
喜び、驚き、楽しみ、ゆとり、やすらぎ、あたたかさ...  
夢屋はアミューズメントホールを通じて  
あなたの心を豊かにしたいと考えます。

北海道から九州まで全国38店舗の「夢ホール」。  
私たちはアミューズメントを通じて  
全国にコミュニケーションの場を提供し  
「憩いと癒しの空間」を創っています。  
お客様一人ひとりに夢と活力を与え、  
日々の生活に潤いをもたらすこと、  
これこそが私たちの目指す事業であり、夢なのです。



**YUME CORPORATION**

おかげさまで創業**40**周年。  
**夢コーポレーション株式会社**

〒440-0075 愛知県豊橋市花田町字西宿23番 8  
ココラアベニュー3F TEL(0532)57-1811  
[www.yume-corp.co.jp](http://www.yume-corp.co.jp)

夢屋グループ38店舗 夢屋釧路新橋店/夢屋豊岡店/シンフォニー手稲店/シンフォニー麻生店/SC夢屋石堂店/夢屋新井田店/夢屋浪岡店/夢屋羽後店/夢屋盛岡店/夢屋新庄店/夢屋多賀城店/夢屋角田店/夢屋白河店/夢屋西那須野店/夢屋黒磯店/シンフォニー藤岡店/夢屋浦安店/夢屋富里店/夢屋小諸店/夢屋五香店/シンフォニー大森店/夢屋浜松店/SC夢屋ファイブ店/夢屋福沢店/夢屋恵那店/夢屋各務原店/夢屋土岐店/夢屋玉城店/夢屋加古川店/ジャムジャム長岡店/夢屋鳴門店/夢屋多度津店/夢屋土佐店/夢屋大年田店/夢屋都城店/夢屋霧島店/夢屋加賀店/夢屋天草店

# 写真で見る ハンギョレ統一文化賞 受賞の旅

12回を数える受賞者の名前を見て、驚きと栄誉と恐縮が入り混じる。海外からは初めての受賞だ。受賞の旅を写真でつづる。



インクの臭いのするハンギョレ新聞を配る



ボンハに寄り、ノムヒョンの墓前に受賞の報告！



答礼晩さん会



ソウルに寺洞・チリ山



関係者全員で記念写真



日本から同行したメンバー



人生はじめてのハングルでの受賞挨拶



仁川空港でにこやかに迎える林東源先生



いざ受賞会場へ



両手に花



途中、金九記念館で天安艦に関する緊急記者会見場に寄り。中央は白楽晴、韓明淑など

## 2010年総会、豊橋で開催

今年の総会は6.15、三千里鐵道10周年記念行事の関係で、豊橋商工会議所において前倒して開催された。

都相太理事長挨拶の後、昨年度事業についての報告があった。

昨年は6.15記念行事として「朝鮮半島の平和」林東源講演会と、「南北首脳会談への道」出版記念パーティーを同時開催し久しぶりの盛況を博した。

しかし、北域緑化、養豚団地造成支援については具体的進展はなかったが、現代峨山との接触で、準備は現在進行中である。

広報活動においては、ニュースレター14、15号発行し、一昨年の8月22日に開設したブログも継続、動画が加わるなど閲覧者も徐々に増えつつある。

昨年度に特記すべき出来事は、3名の元統一部長官の招請で、都相太理事長一行が都羅山を訪問し、感謝牌を授与されたこと。身に余る光栄に浴し、三千里鐵道は特に地元で支援して下さった方々を招き、都相太理事長の10周年記念報告会を行った。

続いて2010年度事業計画が発表された。

まず朝鮮半島情勢の現状を確認した上で、朝鮮半島北域における緑化及び養豚団地造成事業については、韓国の関係団体、企業、個人と協力関係を作りながら、三千里鐵道が主体的に参与できるルートを模索し、日本での養豚団地造

成経験を積むための取組みを始める。同時に『1人1年10株運動』も併せて展開する。

6.15南北共同宣言記念事業は当NPO結成10周年でもあり、韓国から林東源、丁世鉉前統一部長官、李鳳朝前統一部次官を招請し、「東北アジアの平和を求めて」と題する討論会を盛大に開催する。同時に結成10周年を記念する記念誌「非武装地帯に立つ」を発行する。

広報活動においては、ホームページ、ブログを刷新し、その運用をより充実させることが提案された。

以上の報告、提案は満場一致で承認された。同時に会計監査報告と今年度予算案も承認された。

総会には結成当初からの会員でもある衆議院議員近藤昭一先生と記念誌発行委員会委員長朴泰秀氏も出席、それぞれ心のこもった挨拶をされた。



## 地元で記念報告会開催

### 10周年、 その先に何を見る

講師 都相太理事長

今年の2月28日午後2時から、豊川市小坂井町のフロイデンホールにおいて、当NPO結成10周年記念報告会があった。地元で支持者への感謝を込め、ささやかな開催を目指したが中日新聞東三河ページに載り、この日参加者は60名を越え。(詳細は同封の記念誌をご参照ください)

参加者は、2007年南北鉄道連結、昨年都理事長一行の都羅山訪問DVDを鑑賞した後、都相太理事長から当NPO立ち上げまでの経緯と今後の夢を1時間にわたって聞いた。



# コリア国際学園、 3度目の入学式

3年前、大阪の茨木市で産声を上げたコリア国際学園が、今年3回目の入学式を行った。これで中高の全学年がそろった。理事会の発行する機関誌「越境人」も先日2号がとどいた。



苦難の中でスタートした。今年からNPO法人三千里鐵道理事長都相太氏が学園の理事に就任した。常々境界に生きることを楽しめと、子供たちに言って



聞かせている。そして長男の孫娘エミンちゃんを入学させ、ことし二男の孫ユウキ君を入学させ、自身も理事になって学校を支えて行く決意を固めている。そんな都家に嫁いだ恵美さんが、息子を学校に送りながらつづいた想いを紹介する。

## 旅立つ息子へ

都恵美



12歳の息子にとって、コリア国際学園進学はまさに「人生最初の選択、最大の決断」だったと言えるでしょう。彼が選んだ道。親元を離れ、全くの未知なる世界への道。本当に良いのか？ 正しく導いているのか？ そんな愚問を繰り返す私に「僕はKISで学びたい」と言い切った息子の真っ直ぐな瞳。私はこの時気付いたのです。彼の選んだ道に親の思う成功も失敗もないということ。飛び立つ彼が自らそこに答えを見出すのだと。そして私もまた彼の胸に輝き始めた自立の芽を認め、見守っていく覚悟を決めたのです。

息子よ。多くを学び経験することを楽しんでください

い。目で見たと、聞いたこと、その全てを自分の中で咀嚼し、吸収できる深く広い柔軟な心を育ててください。得た知識、経験は必ずあなたの“生き抜く力”となるはずで。

「1+1を5にするは、人のみが成せる奇跡」この言葉は私の胸に強く響き刻まれているものです。あなたとKISとの出会い。この1+1を2にするも5にできるのも自分次第。自分の選んだ道を精一杯突き進んだその先に“奇跡の答え”があるのだと信じています。

忘れないでください。あなたは決して独りではない。父・母・妹・弟、そしてKISの先生方。多くの人達があなたを想っていることを。だから安心して迷い、悩み、葛藤しながら力強く羽ばたいていきなさい。

楽しみに待ちましょう。6年後のあなたがどんな答えを見出すのか。より豊かな旅路であることを祈りつつ…。

## 写真館

在日同胞密集地域の京都東九条にある、在日同胞老人福祉施設“エルファ”でのスナップだ。

2000年創立当時からこの団体を率いているチョン・ヒスン理事長は、「“エルファ”は“アイゴ”の反対語に近い、在日同胞老人たちの境遇を“アイゴからエルファに”との願いを込めて、この感嘆詞を団体の名称とした」と話す。

高齢者を見つめるスタッフの眼差しは、限りなく温かい。入口近くの廊下でハルモニを迎えるスタッフのこの笑顔…、彼女らはまさにこの時代の沈清たちだ。

注) 沈清とは韓国の三大古典の一つである沈清伝の主人公。盲目の父につくす孝行娘の名だ。



# 連帯 東北アジアの平和

## 「韓国併合100年」東海行動、 ただいま活動中

去る3月6日、基調講演に康宗憲氏を迎えて名古屋YWCAで結成集会を開き、「韓国併合100年」東海行動がスタートした。合言葉は「100年と向き合い、日本の良心をつくろう」。

実行委員会には東海地方で日朝・日韓問題を課題に具体的な活動をつづけ、また在日コリアンと協働する23のグループと個人が参加。賛同人も現在、50名にのぼっている。

5月8日には、名古屋・栄のバスターミナル周辺で街頭活動が始まった。「韓国併合」とは何だったのか、その後の100年、日本は植民地支配の責任を果たしてきただろうか、わたしたちがいまなすべきことは何か——など市民に語りかけ、「朝鮮高校を授業料無料化の対象にする」「旧日本軍性奴隷（従軍慰安婦）に対する補償を立法化する」「日韓民衆共同宣言に賛同する」などの要望署



名に取り組んだ。100年ミニドキュメント付きのリーフレットも道ゆく人に配った。行動にはノリパン有志がサムルノリで花を添えた。街頭行動は毎月第2土曜日の午後1時から6月、7月と行なう。

講演集会にも協賛・協力した。4月11日、韓国から労働運動指導者・李寿甲さんを招いた東海民衆センター主催の集会「『韓国併合』と抗日運動」に協賛。5月15日、蓮池透さん講演会「日朝関係を考える——制裁から対話へ」と協働。6月27日、6.15南北共同宣言10周年三千里鐵道討論会「東アジアの平和を求めて」に協力。

7月31日(土)には朝鮮半島から強制連行して作らせた、岐阜県可児市の久々利地下壕を見学するフィールドワークが予定されている。問合せと参加申し込みは東海行動実行委員会(電話052-731-7517)で受け付けている。

さらに8月には写真展、映画上映会を企画し、「韓国併合に関する条約」の調印日に当たる8月22日には、講演とパネルディスカッションによる集会が予定されている。「100年」行動から何が見えてきたか、わたしたちはこれから何をすべきか——現在の課題を探ることになる。

(東海行動代表 磯貝治良)

## いまこそ日本軍「慰安婦」 問題解決を!

### —韓国強制併合100年、解放65年目の夏に—

今年2010年は、1910年の韓国強制併合から100年、朝鮮が日本の植民地支配から解放されて65年目となる。

昨年夏の政権交代で、やっと「慰安婦」問題をはじめ、おき去りにしてきた戦後補償問題が解決に向かうものと被害者はもちろん、私たちも期待に胸を膨らませた。しかし、何ら喜ばしい消息に接することのないまま、この1年間に韓国だけで8名の「慰安婦」被害者が亡くなられた。234名の登録者のうち生存者はついに83名になってしまった。

政局は政権交代への危機感からか右にシフトしはじ

め、むき出しの人種差別や暴力が横行する中、民族差別や「慰安婦」問題否定派の攻撃が続いている。

1945年8月15日、生きてこの日を迎えることができた女性たちにとって、新たな苦難が始まった。異国の地にうち捨てられたまま、祖国に帰る事ができなかった多くの女性たちの一方で、こんな姿では帰れないと、帰国船から身を投げた女性、帰国しながらも家には戻れなかった女性たちの存在があった。貞操を重んじる儒教文化が徹底していた朝鮮では、日本軍兵士の性奴隷だった事実はそれだけで生きる道を閉ざされるほどに罪深いことだった。吉元玉(キル・ウォノク)さんは、祖国解放の喜びに湧く街の声を聞きながら家の中で泣きながら過ごしたという。地獄を乗り越えてやっとの思いで戦地の慰安所から戻った被害者たちを待っていたのは、戦場と同じ、汚いものを見

るような冷たい視線と蔑視であり、家族にさえ受け入れられなかった。

彼女たちが闘いの前線に立って声をあげ始めて20年、人としての尊厳を取り戻すために、日本政府による公式謝罪と賠償が不可欠だ。もう時間がない。私たちは年初より取り組んできた「慰安婦」問題解決をもとめる120万人署名の最終集約を8月15日とし、被害者らが真の解放を手にするを願い、次の国会で日本政府に迫っていくつもりだ。

みなさまの署名へのご協力に感謝するとともに、引き続きご支援をよろしく申し上げます。

〈日本軍「慰安婦」問題関西ネットワーク：ばん ちゃんじゃ〉



## 丹波マンガン記念館、再開館に向け始動

5月27日、再建委員会結成。来年4月開館を目指す

昨年5月惜しまれながら閉館したマンガン炭鉱記念館が、一年ぶりに再建に向け動き始めた。在日と日本の良心がタッグを組み、過去の暗い歴史の現場保存に動き出した。

再建委員会結成のあくる日の5月28日、この記念館を韓国のインターネットサイト統一ニュース記者が取材に訪れた。

……

京都市内を抜け出し山道をしばらく走ると「丹波マンガン記念館」という標識に出会う。しかしその標識は壊れて倒れ、記念館から観覧者の足が途絶えたことを雄弁に物語ってくれていた。

奥深い山中に位置する「丹波マンガン記念館」は、日帝時代強制連行に遭った朝鮮人らが軍需物資生産に必須のマンガン採掘のために苛酷な労働を強いられ塵肺症で命を落としていった現場であり、今は故人になったイ・ジョンホ先生とその遺志を受け継いで記念館を運営

してきた息子ヨンシク氏(50)の魂が込められている所だ。

統一ニュースは記事の冒頭を、このように書き始めた。

記事のタイトルは「日本人に歴史を知らせることが私の使命」。来日直前に韓国で翻訳出版された館長の著書「在日朝鮮人のアリラン」の書評を書いたばかりの記者は、特別な関心をもって取材に臨んでいた。そしてこの著書の執筆動機から、記事のタイトルをつけたのだ。強制連行はなかった、朝鮮人が金儲けのために自発的に日本に渡ってきたと説く田中宇氏の著書「マンガンパラダイス」を見て発奮、10年かけて書き上げた。

イ館長は訪れる日本人の中に時折、何故いつまでも暗い歴史を残そうとするのか、との呟きを聞く。すると、では原爆ドームを日本人は何故残そうとするのかと切り返す。原爆ドームとマンガン炭鉱は、同じ暗い歴史の遺物、被害者の歴史は残し加害者の歴史は消し去ろうとする限り、在日同胞への差別と迫害はなくなるならない、と力を込めて語った。

記者はインタビューの最後に、再建委員会のメッセージを韓国民と海外同胞に広く広報することを力強く約束した。

在日と日本人からなる再建委員会の共同代表に、三千里

鐵道の都相太理事長も名を連ねた。来年4月の再開館に向け、当面募金850万円を目標に活動を始めた。帰り際に投げた記者の激励に、館長は「私がやると言ってできなかったことはない」と満面に笑みを浮かべた。

(namsang)



統一ニュース記者の取材に応えるイ・ヨンシク館長



当時のハンバの中で